

令和8年第11回定例公安委員会会議録

開催日時 令和8年4月9日（木）午前11時10分～午後2時30分

開催場所 警察本部

第1 定例会議

1 開催時間 午後1時30分～午後2時00分

2 出席者

公安委員会 久本委員長 杉原委員

警察本部 梅田警察本部長 渡邊警務部長 渡邊首席監察官
山柘生活安全部長 細田刑事部長 宮田交通部長
永島警備部長 山田警察学校長 永井情報通信部長
生田警務部参事官

（事務局等～柳原公安委員会補佐室長、総務課員）

3 議題事項

犯罪被害者等給付金の支給裁定（警務部）

警察本部

警察本部から、犯罪被害者等給付金制度に基づく給付金の支給裁定について説明がなされた。

委員

事前に説明を受けており、このとおり決裁する。

4 報告事項

- 鳥取県議会 令和8年2月定例会の結果（警務部）
- 米子警察署旗ヶ崎交番の新築移転（生活安全部）
- 自転車乗用中に死傷した交通事故の分析結果（交通部）

(1) 鳥取県議会 令和8年2月定例会の結果（警務部）

警察本部

鳥取県議会令和8年2月定例会は、令和8年2月24日に開会し、30日間の会期を終え、3月25日に閉会した。2月定例会における警察関連の議案については、令和8年度鳥取県一般会計予算、令和7年度鳥取県一般会計補正予算について可決された。

警察に対する質問、答弁の状況について、代表質問では、鳥取県議会自由民主党の浜崎晋一議員から「オンライン詐欺被害の未然防止」について、鳥取県議会民主とっりの坂野経三郎議員から「外免切替対策と職員体制」について質問があり、さらに「警察職員の定数増加の必要性」について追及があり、それぞれ警察本部長が答弁した。

一般質問では、公明党の前原茂議員から「自転車の交通安全」について、鳥取県議会自由民主党の東田義博議員から「鳥取自動車道の交通安全対策」について、さらに「全線ライト点灯の浸透状況と効果」、「鳥取らしい情報発信」について追及があり、それぞれ警察本部長が答弁した。

地域県土警察常任委員会においては、「令和7年における犯罪抑止総合対策の推進について」、「自転車利用者の交通違反に対する交通反則通告制度の導入及び取組について」、「一定額以上の工事又は製造の請負契約の報告について」の合計3件の報告を行った。

委員

2月定例会では、4人の議員の方から質問をいただいた。浜崎議員から、被害が年々増大している特殊詐欺について質問していただき、県民の体感治安を下げている特殊詐欺について、県警察の取組等を周知するなど、警察本部長から適切な答弁をしていただいた。前原議員からは、4月から自転車の交通反則通告制度導入に併せて、タイミングよく話題を取り上げていただいた。東田議員からは、鳥取自動車道の安全対策ということで、可変式電光表示板を活用した、鳥取らしい情報発信等について質問していただいた。いずれも、本部長から適切な答弁をしていただき、県民の方々に改めて様々な周知ができたと思う。

委員

警察職員の定数増加について、有り難い御意見をいただいた。昨今の社会情勢や県民の懸案事項や注目されていることへの御意見があり、その様な御意見や御指摘については真摯に受け止めて今後の業務の運営に生かしていただければと思う。

(2) 米子警察署旗ヶ崎交番の新築移転（生活安全部）

警察本部

米子市旗ヶ崎五丁目地内に所在する現在の旗ヶ崎交番は、昭和56年に新築され、45年が経過しており、来訪者用の駐車スペースやコミュニティールームが未整備で、来訪者対応に支障がある状況であった。施設の老朽化と敷地狭わいの解消、そして地域住民の利便性の向上と地域安全の拠点としての充実を図るため、今ある交番から同じ町内の北側に約50メートルの場所に新築移転し、令和8年3月24日に引き渡しを受けた。業務開始は4月14日からとなっている。新しい交番は、ハートフル駐車スペース1台、来訪者用2台を含む4台の駐車スペースがあるほか、来訪者用のコミュニティールームや来訪者用の洋式トイレも完備している。落成式は、4月15日に米子市立住吉公民館において、米子市長などの来賓のもと実施する予定としている。交番の新築移転については、交番連絡協議会、自治会連合会での事前説明やミニ広報紙の配布・回覧を行っている。今後は、巡回連絡や県警察のホームページ、県警察公式エックスに掲載するなどして周知を図っていきたいと考えている。

委員

コミュニティールーム等が整備され、すばらしい交番に生まれ変わったと思う。地域安全のシンボルとして、地域の方々から愛され親しまれる交番に育てていてもらいたい。

委員

駐車場が広く、訪れる方にとって行きやすい交番になった。地域住民の最も身近な警察の拠点が交番だと思っている。利用しやすく、相談しやすい交番となり、地域の方々の安心の向上につながると思う。

(3) 自転車乗用中に死傷した交通事故の分析結果（交通部）

警察本部

まず、過去10年間における、自転車が関係する交通事故の概要であるが、自転車乗用中の交通事故による死傷者数は1,056人で、うち死者数は21人であり、過去10年間の交通事故による全死者数190人のうち約11.1パーセントを占めている。学齢別・年代別で見ると、死傷者数は高校生が193人、率にして18.3パーセントと最も多く、中学生は99人、率にして9.4パーセントで、中学・高校生が292人と全死傷者の27.7パーセントを占めている。65歳以上の高齢者については、死傷者数は251人で、全死傷者数の23.8パーセントを占め、死者数は全死者数21人中14人、率にして66.7パーセント、このうち75歳以上は8人と、高齢になるにつ

れ死者数が増加している分析結果である。

次に、中学・高校生と高齢者の自転車乗用中事故の特徴であるが、時間帯別では中学・高校生は登下校の時間帯に当たる８時から１０時までの間、１６時から１８時までの間に多発しており、高齢者については８時から１２時までの午前中に多発している傾向にある。また、法令違反別の状況では、中学・高校生の死傷者数２９２人中９０人、率にして３０．８パーセントに何らかの法令違反が認められ、特に交差点通行時の注意義務違反が３３．３パーセント、一時不停止等２５．６パーセントと違反割合が高くなっている。高齢者については２５１人中５６人、率にして２２．３パーセントに何らかの法令違反が認められ、特に安全不確認の違反割合が高い傾向が出ている。

次に、年齢別・年代別の自転車乗用中死傷者のヘルメット着用率は、全世代で見ると１５．６パーセントであり、中学生の着用率は５９．６パーセント、高校生は１０．９パーセント、高齢者は５．６パーセントという結果が出ている。この様な分析結果を踏まえ、自転車乗車中の交通事故抑止対策として自治体や教育委員会を始めとする関係機関・団体と連携し、高校生を含む利用者に対する交通反則通告制度の周知・啓発活動を強化するとともに、従来通り乗車中のヘルメットの着用等の自転車の安全な利用について、広報・啓発活動を推進していく。また、自転車交通秩序の実現に向け、自転車の交通違反に対する指導取締りを強化し、自転車事故のない安全で安心な鳥取県の実現に向けた重点的・計画的な総合対策を推進していく。

委員

自転車に関わる交通事故が絶えない中で、過去１０年間交通事故を分析されたことは、大変よいと思った。中でも中学・高校生及び高齢者の死傷者の割合が高いことから、重点を置いて対策を進める必要があると思う。

４月から始まった自転車の交通反則通告制度について、今回の制度導入は検挙することが目的ではなく、自転車による交通事故、死亡事故を減らすことが目的である。制度が開始して指導がしやすくなったと思うが、ヘルメットの着用率について心配なところである。ヘルメットを被ることで、よりルールを守ろうという意識が高まり、自転車も車両であるという意識をしっかりと持っていると思っている。努力義務ではあるが、自転車はヘルメットを被って乗る乗り物であることを、大人が率先して手本を見せていくことが大切である。地道に広報活動を行い、自転車に関わる事故、事故による死傷者を減らしてもらいたい。

委員

過去１０年間の分析結果を興味深く拝見した。４月から自転車の交通反則通告制度が始まっており、制度導入により数字が変化していくのではないかなと感じている。分析結果を今後の啓発や指導取締りにしっかりと活用していただきたい。また、ヘルメット着用について、着用が浸透していないことに悔しさを

感じる。今後も、県民に分かりやすい周知を重ねていただきたい。

第2 その他の公安委員会活動

1 意見の聴取

運転免許課から、道路交通法に基づく意見の聴取5件について、事案概要、処分理由、当事者の陳述要旨、基本量定等を詳細に聴取し量定を決定した。

2 聴聞

3 事前説明

4 報告事項

- ・ 公用車事故の発生状況（令和7年第4四半期）
- ・ 女性拉致容疑事案の概要説明

5 決裁

- ・ 審査請求書の受理について
- ・ 警察署協議会委員の辞職・委嘱について

6 公安委員会委員間の事前検討・協議等

7 公安委員会補佐室からの事務連絡等

公安委員会補佐室から当面の行事予定等について確認と説明があり、了承した。